

異文化に医療の壁厚く

日本に滞在する外国人が増えるに伴い、医療現場で様々なトラブルが起きている。言葉や風俗、習慣の違いからくる異文化摩擦、保険に入っていない不法就労者や短期滞在者が病気やけがをしたときに起きる医療費をめぐる問題……。こうした「外圧」は、これまでの日本型医療に見直しと対応を迫っている。

摩擦 日本人の医師と外国人の患者との間でどんな摩擦が起きているのか。

妊娠して入院した中国や台湾の女性は、あまり生野菜を食べないという。母国では妊娠中、おなかを冷やすのはよくないと、冷たいものは控えるからだ。

欧米人は薬に敏感で、種類や副作用を詳しく聞く。日本の「薬漬け」を嫌がって、指示通り服用しない人も。とくに抗生物質は使いたがらない。母国のかかりつけ医師に、ファクスで「飲んでいいか」と問い合わせる米国人もいる。

入院患者の場合、週一回程度ある順番制の入浴を「不潔だ」と嫌がり、毎日シャワーを使いたがる。イスラム系の女性は、男性医師の前で肌を見せようとしないという。

自宅に「台湾語と北京語によるいのちの電話 関西生命線」を設け、様々な相談に応じている台湾出身の伊藤みどりさん(関西)大阪

外国人患者とトラブル

市西区は十五年前に日本人と結婚した。長女を出産する時、初めは近所の産院に通ったが、言葉がうまく通じずストレスが高じた。「産むのが怖い」という気持ちかがどう伝わったのか、「それなら、おろしたら」と医師に言われ、傷ついた。結局、知人に紹介してもらった台湾人経営の病院で出産したという。

医療保険 民間団体「アジア医師連絡協議会」(本部・岡山市)は昨年、東京都内に「国際医療情報センター」を設け、外国人の電話相談に応じている。月に約百件、七割は「言葉の分かる医師の紹介」、一割が「医療制度」の相談だ。

医療制度をめぐる、神戸市でトラブルが起きている。治療費約百六十万円を支払えないスリランカ人留学生に対して、神戸市が生活保護法に基づく医療扶助

る。だが、総務庁の昨年の調査では、医療機関を利用した外国人のうち約五三%が加入していなかった。神戸市は一九九〇年から

る。だが、総務庁の昨年の調査では、医療機関を利用した外国人のうち約五三%が加入していなかった。神戸市は一九九〇年から

る。だが、総務庁の昨年の調査では、医療機関を利用した外国人のうち約五三%が加入していなかった。神戸市は一九九〇年から

る。だが、総務庁の昨年の調査では、医療機関を利用した外国人のうち約五三%が加入していなかった。神戸市は一九九〇年から

る。だが、総務庁の昨年の調査では、医療機関を利用した外国人のうち約五三%が加入していなかった。神戸市は一九九〇年から

る。だが、総務庁の昨年の調査では、医療機関を利用した外国人のうち約五三%が加入していなかった。神戸市は一九九〇年から

る。だが、総務庁の昨年の調査では、医療機関を利用した外国人のうち約五三%が加入していなかった。神戸市は一九九〇年から

る。だが、総務庁の昨年の調査では、医療機関を利用した外国人のうち約五三%が加入していなかった。神戸市は一九九〇年から

る。だが、総務庁の昨年の調査では、医療機関を利用した外国人のうち約五三%が加入していなかった。神戸市は一九九〇年から

る。だが、総務庁の昨年の調査では、医療機関を利用した外国人のうち約五三%が加入していなかった。神戸市は一九九〇年から

る。だが、総務庁の昨年の調査では、医療機関を利用した外国人のうち約五三%が加入していなかった。神戸市は一九九〇年から

る。だが、総務庁の昨年の調査では、医療機関を利用した外国人のうち約五三%が加入していなかった。神戸市は一九九〇年から



言葉通じず
習慣も違い
健保未加入

フレットを留学生に配布。大阪府は、外国語が通じる病院名や症状の伝え方を日本語とハングル、中国語で書いた冊子を作った。

国際医療情報センターの小林米幸所長は「相手の風俗や習慣を理解しないで起きるトラブルが多い。外国人は検査や薬の費用を知ってから治療を受けようとするが、勤務医で保険点数の仕組みを知っている人がどれだけのいるか。薬漬けや待ち時間が長い。三分治療などの改善も、より迫られている」と話す。

市内に住む留学生を対象に保険料の補助制度を始めたが、対象者約五百人のうち加入者は二百数十人とまだ半分。特に社会主義国の中国人に保険制度を理解してもらうのが難しいという。さらに問題なのは、国保の加入資格がない不法就労者。民間の保険に入るか、自分で全額医療費を負担する